

田野町における医療救護プラン (行動計画)

田野町役場 保健福祉課

平成30年11月 作成

田野町

四国一面積が小さなまち

6.53km²

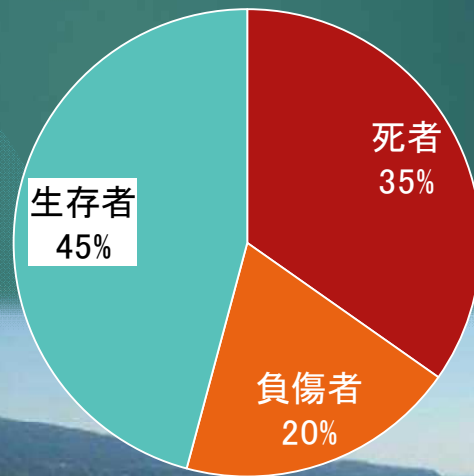
人口 2,653人 1,299世帯

(うち、65歳以上1,072人 40.44%)

避難行動要支援者 170人

田野町の想定被害

人口 (H30.4.1)	2,653人
死者数	L1 10人 L2 920人
負傷者数	L1 130人 L2 520人
浸水継続時間	12時間以上
建物被害	L1 180棟 L2 2,460棟
医療機関数	1施設



L2想定	死者	負傷者
建物倒壊	130	440
津波	720	70
火災	70	10
合計	920	520

四国一面積が小さくて、四国一魅力的な町

1 現状 田野町医療救護計画

津波浸水想定深(m)

【L2想定】

10.0m~15.0m

5.0m~10.0m

3.0m~5.0m

2.0m~3.0m

1.0m~2.0m

0.3m~1.0m

田野中学校
(災害対策本部)
※役場浸水時

中芸高校
(医療救護所)



田野病院 (救護病院)

田野町役場
(災害対策本部)



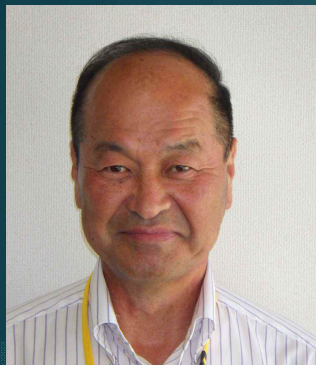
ふれあいセンター
(医療救護所)



保健センター (医療救護所)

中芸クリニック

田野町の行政機構図



常石町長

副町長

総務課 (8)

まちづくり推進課 (9)

保健福祉課 (8)

会計管理者 (兼務) (1)

教育委員会 (6) ……保育・幼稚 (12)

議会 (1)

出向

高知県 (2)、安芸広域 (1)、中芸広域 (5)

長期孤立



空路支援

田野町

広範囲の道路崩壊

安芸市

安田町

田野町

奈半利町

室戸市

西日本広範囲に
津波による浸水

救援ルート 迂回ルート15.4日

南国IC→国道32号→県道なんこく南インター線→なんこく南IC→安芸東IC→県道大久保伊尾木線→国道55号→県道安田東洋線→町道東西島線→町道東島与床線→町道西ノ久保野田川線→町道沖ノ沢線→町道沖ノ沢薬師堂線→広域農道東島線→町道立岡桃山線→県道西谷田野線→国道55号

(※高知東部自動車道：安芸道路完成時)

2 目的

全ての資源（人、物）を活用して、災害で負傷した住民に対し、最大限の医療救護活動を実施する。

3 南海トラフ地震の発生で起こり得る状況

大きな揺れ、家屋の倒壊、ライフライン停止、情報通信機器の停止、津波による浸水、火災、道路網の寸断による孤立化、多数の死傷者・負傷者・行方不明者

医療救護所等のスペースが少ない

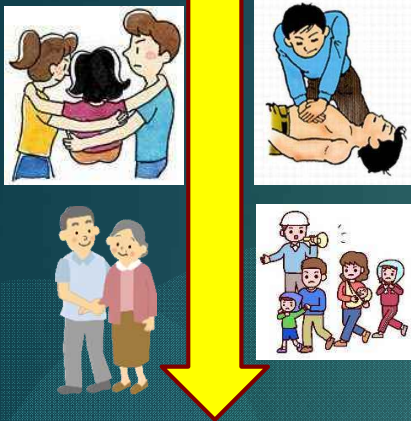
ただし、全ての職員が対応できるかわからない。

医療従事者が少ない



4 プランの考え方

負傷者の発生



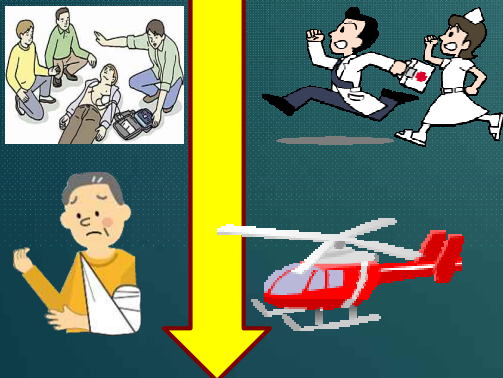
・被災状況や交通網の寸断等により、必ずしも指定されている医療救護所等で主体的な医療活動が行えるかは未確定です。

このため、従前からの医療救護施設に加え、浸水区域外へ医療救護施設を追加しました。そこへ参集できた住民参画の機能を追加し、医療従事者とともに、まず、初期治療（応急手当）や安定化措置の実施を目指します。

また、医療救護所、地域住民と災害対策本部との画一的な情報連絡手段を構築し、必要な情報や資源の提供及び後方搬送が素早く行える体制を目指します。

救護病院、医療救護所 ・ 地域住民の協力

応急手当・安定化措置・療養



負傷者は何処へ搬送したら？
どこで医療活動が行えるか？
医薬品や人材は何処へ行ったら？
医療提供情報を知りたい？

混乱が想定されるなか

最善の備えは可能！！

後方搬送場所（外部受援）

自助

近助

共助

公助

訓練

啓発

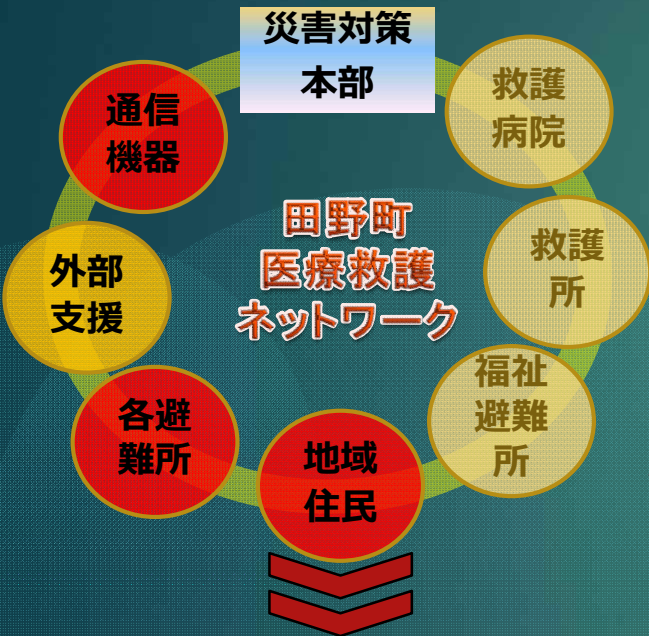
計画

通信

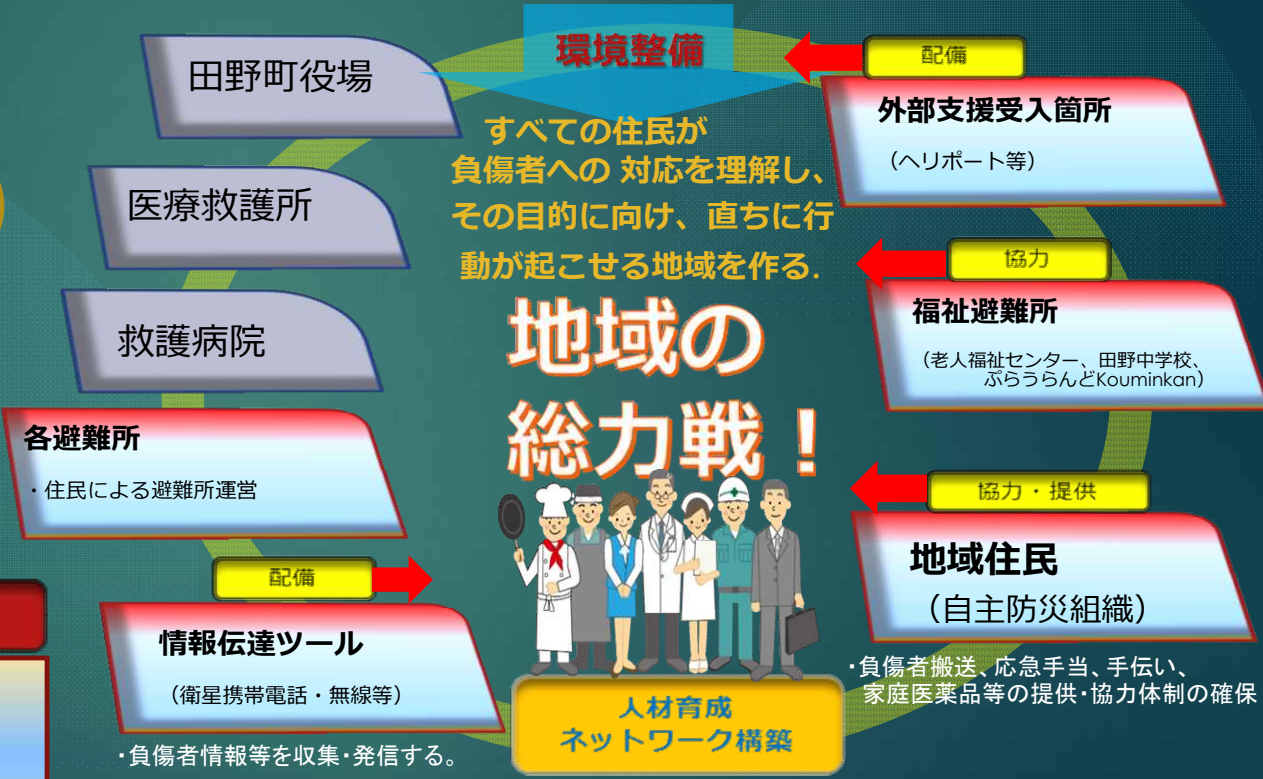


5 誰もが協力できる「新たな医療救護行動」の策定 田野町

情報を中心としたネットワークを構築



- 目的** ⇒ 負傷者に対し、適確・迅速な治療・処置・療養・搬送を行います。
- 目標** ⇒ 目的達成に必要な行動を明確にし、各自が速やかに対応可能な行動を起こせる仕組みを整備します。
また、日頃から災害を意識し、減災（負傷者の低減）を目指します。



地域の総力で負傷者を援護！！

求められる医療救護行動計画

- 目的・目標が明瞭
- 誰もが協力可能な体制の整備
- 自助、共助、公助の連携
- 継続した体制の確保・怪我をしない準備
- 情報網、外部支援箇所の確保

誰もができる行動計画の事前準備が不可欠

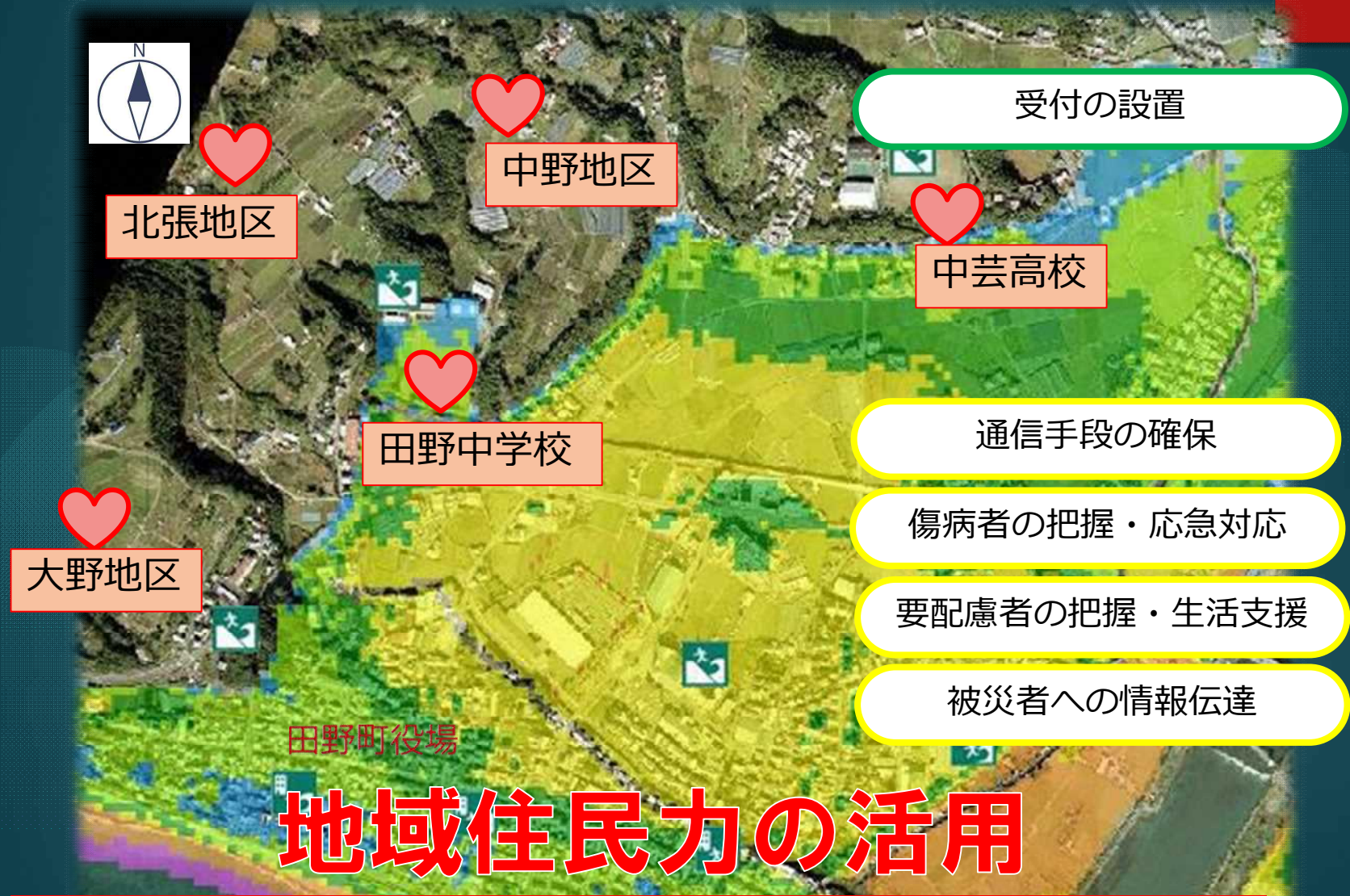
医療救護プラン、Q&A、救護所等設営シート、救護計画に係る広報等による周知。応急手当、患者搬送訓練の実施。各種講演会の開催により啓発。避難所運営マニュアル。

6 田野町医療救護計画（目指す姿）



	救護病院 +	医療救護所 +	衛星携帯 電話 ●	福祉避難 所 ●	住民参画 ♥	ハロート H
既存計画	1	2	2	2	—	4
改訂計画	1	3	3	3	5	4

7 避難所運営マニュアル（抜粋）



避難所を開設するための準備

避難者の受入れ

運営

撤収

地域住民力の活用

避難所の開設や運営に必要な活動を避難した住民自身で行えるよう、ひとつひとつの手順をマニュアル化

8 課題

- ① 医療従事者が不足のため、医療救護所運営が厳しい
- ② 被害想定からみた負傷者数を受け入れるためのスペースが不足
- ③ 外部支援チーム（DMAT）の早急な支援が必要

